

## 平成 28 年 2 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

2月の業種別景況のDI値は、13業種の内一般機器とサービス業のみが前年同月比で好転しているが、それ以外の9業種は低迷しており、景況感は改善傾向にない。

一般機器・小売業・サービス業・運輸業では慢性的な人員・人材不足が続いている。さらに、燃料価格の低下によりコストダウンが図られるが、それ以外のコストは下がらず、経営環境は依然として厳しい状況が続いている。

### 山口県の主要指標 DI 値（平成 28 年 2 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転： 2.5% 悪化：40.0% DI 値：▲37.5% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加： 11.3% 減少：47.5% DI 値：▲36.2% ポイント



収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、好転： 3.8% 悪化：33.8% DI 値：▲30.0% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 28 年 2 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲42.9	▲25.0	▲66.7	▲100.0	▲83.3	0.0	0.0	▲39.4
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業
▲40.0	▲66.7	▲75.0	8.3	▲30.0	▲57.1	▲36.1
						

全 体
▲37.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	バレンタインデーで特徴のない組合員は苦戦した。レノファ山口に向けた菓子の開発に取り組む菓子店が増加。40年前に320円であったショートケーキが現在は380円で、原価上昇の割に売価が上昇しておらず、菓子業界は厳しい状況である。	パン・菓子製造業
	1月は対前年同月比▲15%。2月は2/20時点で▲10%以上の大幅ダウン。大河ドラマ効果がほぼ無くなり、前々年の水準に戻った。今後もダウンの傾向が続くと予測されるので、パブリシティ強化など対策を講じていく。冷蔵庫・冷凍庫・ショーケース等の温度管理機器群が実質耐用年数の15年となるに伴い、設備更新の計画。経済産業省の省エネ補助金を活用する予定で、先般、中国経済産業局と打合せを行った。	水産食料品製造業 萩市
	1年のうち一番物が動かない時期でもあり、景気情報でもこのところ下方に進んでいるという報告が多く、商品の動きが鈍い。	水産食料品製造業 下関市
	ここ数年、地球温暖化による異常気象の影響か、農産物の生産について過去の経験値を活かせない状況が続いている。また、TPPの合意締結の影響か、お米の価格が下落傾向となり、これから、更に厳しい状況になると予想されるので、適切な対策が必要となっている。	精穀・製粉業
繊維工業	主力販売取引先の1月からの新製品キャンペーンにより追加発注があり、4月末までの受注量がある。外国人技能実習生受入は、現在、中国人38名、ベトナム人23名の計61名。ベトナム人実習生の通訳専門スタッフの雇用を引き続き検討している。	下着類製造業
	組合全体での売上金額は組合員の減少に伴い減っているが、組合員各社の受注や引合いは増加してきている。	外衣・シャツ製造業 山口市
	春夏物の生産で受注は順調。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	新設住宅着工戸数は微減で推移。木材価格の変動はない。	製材業・木製品製造業 山口市
	引合い、売上も減少。業界の景況は相変わらず良い兆しが見えない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	利益額、率ともに低下傾向。県内が良い。	印刷

窯業・土石製品	<p>組合員企業に従業員1名の雇用があった。年度末にもかわらず入札件数が激減しており、今後も厳しい状況が続く見込み。</p> <p>(平成27年2月)</p> <p>骨材191%、路盤材134%、再生材133%</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(平成28年2月)</p> <p>骨材 90%、路盤材 84%、再生材 81%</p>	砕石製造業
	<p>出荷量は、前月比69%、前年同月比80%。現時点でセメント・骨材等の資材調達に問題は生じていない。</p>	生コンクリート製造業
	<p>テレビで「墓じまいが流行している」と流れ撤去の依頼があるが、処分費用まで考えていない人が多く、見積の金額に驚かれる。作業内容と産業廃棄物だという事を知ってもらい、納得して頂くしかない。</p>	石工品製造業
	<p>昨年はNHK大河ドラマの影響で観光客も増え賑わったが、年が明けて観光客も減り厳しい観光地に戻ってしまった感がする。</p>	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	<p>需要の停滞、製品単価の低下・上昇難などが見受けられる。</p>	一般機械器具製造業 周南市
	<p>2月の景況は前月に引き続き概ね不変。①地元マツダは好調だが、全般的に見て自動車関連は少し下降気味。②株価の世界的な安値傾向、中国市場の鉄鋼中心の減退が中小企業にどのような影響が出てくるのか懸念をしている。③発注先が大手に偏ってきつつあり、また日本を東西に分けて考えると東側からの発注が多い。④大都市や大手の好調さは地方中小企業に及んでおらず、賃上げどころではない。⑤人手不足の状態が続いているが、企業内の年齢的な断層が懸念される。</p>	一般機械器具製造業 防府市
	<p>機械検査、機械加工関係の下請企業の受注状況に陰りがみられ残業が減っている。惣菜、鋳造、自動車関係は好調で残業も多いため、組合としては36協定の順守を指導している。食品加工、スーパー、食肉加工業、溶接関係、惣菜、自動車整備業、介護サービス業では、既に派遣等を活用しているが人手不足のため、外国人技能実習生の受入増員や新規の相談があり、特に介護施設からの問い合わせが増えている。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
	<p>売上高は微増している。</p>	一般機械器具製造業 宇部市

	<p>金型生産の設備操業度は1月度より上昇したが、3、4月はやや低迷しそう。現状の受注金型は試作金型（量産前の試作品）が多く、短納期、低価格対応で思ったほどの利益は出ないが、何とか量産金型へ移行出来る様に顧客とコンタクトを取っている。今年に入り商談の話が少なくなって来ている模様で、中小規模の成形屋の後継者不足、仕事が親会社に戻されて仕事がなくなつての廃業が多くなっている模様。テレビ報道では、景気は回復しており求人数も増えているとのことだが、実感が無い。成形製品の生産設備稼働率は上昇傾向だが、受注量が伸び悩み先が読めない状況が続いている。</p>	特殊産業用機械製造業
輸送機器	<p>鉄道車両、精密加工、プラント部門ともに発送高が少し落ちて、部品製作作業高も横ばい状態となっている。全体的にはまずまずの作業量を確保しているが、販売価格の低下は厳しい。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>全漁場とも平均水温が11.0℃と例年より1℃高めで落ち着いて来ており、“アカ”の被害も一部を除いて小康状態か消滅状態になっている。1枚が7円以下の価格が低い“下もの”が高騰しており、なかなか買えない状態が続いている。これからの気象が今後の漁期の生産に大きな影響を与えそうである。</p>	乾物卸売業
	<p>相変わらず養殖フグが少なく、まだ売れる時期なのに例年になく厳しい状況である。鮮魚も時化が多いため入荷量が少ない。売り先があるのに商品が無いというのは最も辛い事である。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>日用品雑貨の卸では紙おむつの衛生用品、哺乳瓶の洗浄剤等の売上が増加している。</p>	各種商品卸売業 山口市
小売業	<p>1～3月の化粧品小売業界は例年、低迷気味である。メーカーより美容部員のサポートが多い店は従来通りである。山口県内ではインバウンドの影響で売上の良いところはあまりない様子。</p>	化粧品小売業
	<p>地区の中小企業者の動向は、自動車関連製造業は海外から戻った仕事が増えており他の業種と比べて業況は引き続き良い。建設業は、熟練工が不足し、今後は新規学卒を育てる必要がある。岩国地区は基地関連の仕事が引き続き好調であるが、防衛省の仕事で施工管理が厳しいとのことで、地元中小建設業者が受注できているかは疑問である。小売業は以前に比べて客単価が落ちており処分価格で売り出してもあまり売れない。消費が多様化し、節約ムードもあり厳しい状況が続いている。将来的には域内人口減少が最大の問題と思え、交流人口を増やす活動が必要と考えるが、経営者の高齢化によりその馬力もない状況である。サービス業は原油価格の下落により、</p>	各種商品小売業 岩国市

	引き続き採算や資金繰りの面で恩恵を受けているが、また原油価格が高騰することも考えられ楽観は出来ない。飲食関係のお店は善戦している。	
	徳山中心市街地で唯一のスーパーマーケットが閉店を発表。	各種商品小売業 周南市
	大型ショッピングセンターのリニューアルの影響が次第に色濃くなってきていると思われる。人出・売上高とも前年同月比で大幅に減少。	各種商品小売業 山口市
	売上は減少だが雇用人員不足が続いている。	各種商品小売業 下関市
	先月同様、全店ベースでは売上は前年を上回ったが、既存店では、客数・売上とも前年同月比をかなり下回る売上の状況。	各種商品小売業 長門市
商店街	気温の上昇から冬物衣料などの低調が続く一方で、春物品揃えもなかなか売上に結びつかない。雑貨類、化粧品等の売上は微増している。商店街への若い女性客層の減少が原因か。	山口市
	2月も全体的に悪い状況。売上げのアップのため3月にスタンプのイベントを開催することとなった。3月にこのようなイベントを開催することはあまりなかったが、商店街に出向いてもらう為の苦肉の策である。	萩市
サービス業	1月下旬からの寒波の影響で水道管等の修理に手間取り、営業等に影響が出ている模様。	美容業
	天候が不安定であったが、結局は不変の状況。	理容業
	業界紙の見通しでは、今年上半期の車検台数は例年に比べ大幅な減少が予想されるとのこと。2月初旬に1月の山口県の車検実績が判明したが、前年同月比で▲13%の厳しい結果だった。	自動車整備業 山口市
	慢性的な人手不足。景気回復の望みは薄い。専業では経営が成り立たない。	自動車整備業 山口市
	人手不足が継続している。年度末から来年度初めの入会者獲得で試行錯誤している。2月は上田中校工事のため休会者が多い。	スポーツ・ 健康教授業
	大きなイベントは無かったが順調に推移し、宿泊人員及び売上高とも前年同月比で105%のアップであった。平成27年度のインバウンドは16,000人超の見込みで、前年度比で5,000人超である。この内の2,000人は、平成27年7月下旬～8月上旬のスカウトジャンボリーによるもの。	旅館業 山口市
	“やまぐち幕末ISHIN旅行券”の使用期限が2月末であったため駆込み利用があり、例年のこの時期より多少好転している。	旅館業 下関市

	天候が回復し、売上は前年同月と変わらないが、収益状況は厳しい状況が継続している。	旅館業 長門市
	原油価格の値下がりも底を打った感があり、ガソリン価格の上昇がみられた地域もあったが営業にはあまり影響はなかった。しかし、客入りの減少は続いておりトータルでは収益は悪化している。安倍政権下のマイナス金利政策は円安、株安の打開にはならず、高所得者優遇となっており、大衆が顧客の飲食業界においてはなかなか収益増にはならない。デフレ脱却も公約の一つであるが、直に販売価格の値上げには通じることはない。年度末になり、節目のインセンティブイベント需要が戻ってくるか気になるところだが、相変わらず先行きの見えない飲食業界である。	飲食業
	例年通り2月は閑散期。納期を守りつつ、なるべく収益が出るように、一度の洗濯処理枚数を貯めて調整しながら、水道光熱費を極力抑えるようにしている。3月半ば以降に気温が上昇してくれば、繁忙期に突入すると思われる。	普通洗濯業
建設業	山口支部の中電への工事申請は1月260件（前年は272件）。太陽光発電への申請37件、オール電化申請48件（前年は太陽光48件、オール電化72件）、LED街路灯への切替・新設申請51件（前年は40件）であった。	電気工事業
	岩国基地の工事を除くと、県内のみならず隣県の広島・福岡も忙しくないように思われる。	左官業
	若手技能職及び女性の雇用について、「来てくれる訳が無い」と組合員は元から諦めている。補正予算も工事量の多い地区に配分されそうで、地域工事量の平準化はどこに行ったのか。建設業のみならず地区全体の活気が出ないと、どの業種の元気もない。	土木工事業 柳井市
	28年2月の受注高は、前年同月比50%。今年度の累計では対前年比41%。	土木工事業 萩市
	2月末納期の工事は無事終了。燃料価格が下がって一時的に助かっていたが、この低価格が4月以降の入札単価に採用されたため、4月以降に燃料価格が値上がった場合はあまり面白くない状況となる。毎年3～4月は入札も仕事も無い時期で、5月以降に入札も仕事も開始となるが、4月初めに発表となる入札予定に期待をしている。	管工事業
運輸業	スチール製品のアルミ製品への軽量化傾向が右肩上がりとなって輸送量が減少している。鉄鋼素材等は横ばい。輸出関連はやや下向き。長距離ドライバー不足と高齢化で中近距離輸送も稼働率の低下。前年同月比で0.8%の売上の減少となった。燃料費は	一般貨物自動車運送業 下松市

<p>6. 9円の値下げとなったが、運送業へのプラス材料は微々たるものである。軽油引取税の減額を望んでいる。</p>	
<p>自動車等輸出関連は引き続き前年割れであり、半年あまりこの状況が続いている。来期は更に悪化が予想され、10%余りの落ち込みも囁かれている。世界的な需要の落ち込みに加え、円高の加速は負の連鎖となっている。燃料価格は安値で安定している。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
<p>運送では相変わらず人員不足が続いている。人員を補充して車両の稼働率を上げ、収益につなげることが喫緊の課題である。倉庫保管の案件は多く、自社倉庫もいっぱいになりつつあり、外部倉庫の賃借が必要になるほどである。これから決算期に向けて物量の増加が期待される。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
<p>最近原油の価格が下がっており燃料代の支払いが一時的に楽になったが、これを理由に運賃の値下げを要求してくる荷主が出始めている。各組合員には適切な運賃確保の努力をするようお願いしている。非常に困っていることは、ドライバーの高齢化により人材確保が難しくなっていることである。現在大型の運転手の平均年齢が47歳。ハローワークに運転手の募集をしているが、問い合わせはほとんどない。これから先、運転手確保が困難で、黒字倒産の会社が出る可能性は否めない。そのためにも景気回復と適切な運賃を取れる環境を作らなければならない。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下関市</p>
<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲4.9%（平成28年1月1日～平成28年2月20日分）。1月1～31日分は▲3.6%、2月1～20日分は▲7.1%。1月中旬、2月初旬は少し回復したが、2月10日以降は大変厳しい状況が続いている。当組合の取扱いの1月分は、周南▲4%、下松▲10%、光▲9%、防府が+5%、地区外（員外）▲15%となり、組合員の全域で▲7.4%となった。防府の増加は前年度の減少が大きかった影響だが原因ははっきりしない。主要燃料のLPGは、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、為替が少し円高になり、ブタン、プロパンのCPが急落（前月433\$/トンが今月353\$/トン）し、購入単価は先月よりも9%安くなった。前年2月分も下降傾向で前年比14%安価になっている。車両代や整備費用が上昇しており燃料費が下がるのは大いに助かっている模様。うるう年で今月は日数が1日多いため、何とか月間売上が前年並みになることを期待しているが、1日当りの売上は2月中旬以降確実に減少して</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>

	いる。アベノミクス効果は、地方の個人消費まで届いていないと思う。	
	相変わらず、荷役の伸びはありません。	港湾運送業